

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● 排出量削減の社会的責任を果たすため、第1ステップとして排出量の大きい領域などの把握を目的においている。</li><li>● CDPや特定顧客などからのサプライチェーン排出量に関する開示要請が増加する中、算出方法の基本フレームを構築する。</li><li>● 開示要請に対応することによって企業評価の向上につなげることも重視している。</li></ul>
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● カテゴリ別の排出量割合などから削減に注力すべき領域を把握し、様々な削減取り組みにつなげていく。</li><li>● CDPや特定顧客などからの開示要請に対する対応や、ホームページ等で算定結果を開示していく予定。</li></ul>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● 企業全体および製品ごとにサプライチェーンでの排出量の比率を把握することによって、効果的な削減活動につなげられること。</li><li>● 社内外からのサプライチェーン排出量に関する質問に対応できるようになり、企業評価の向上につなげられること。</li></ul>
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社内の関連部署がデータを収集し、環境部門などが集計・算定する。</li><li>● 例えば、設計部門より構成部材データ・製品使用時の仕様データ、調達部門より購買実績データ、経理部門より設備投資・出張・通勤などの支出データ、物流部門より輸送実績データを収集する。</li></ul>

	各社の考え方
<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品の省資源化に取り組んでいる。</li> <li>● 製品物流の排出量削減目標を設定して取り組んでいる。</li> <li>● 省エネ製品の登録と排出量削減目標の設定をして取り組んでいる。</li> <li>● 事業部門ごとにScope1,2の排出量削減目標を設定して取り組んでいる。</li> <li>● 主要取引先でのCO2排出量の把握。</li> <li>● 商品・サービスによる環境貢献と環境負荷低減活動に関して革新性・創造性を発揮し優れたプロセスや成果が評価されたものを表彰している。</li> </ul>
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<p>多様な事業ドメインを考慮して全社的かつ長期的に一貫性のある算定方法を確立すること。 具体的には以下。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特にカテゴリ1(購入した物品・サービス)の算定の精度向上。</li> <li>● カテゴリ9(下流の輸送・流通)の算定方法の確立。</li> <li>● 排出量の大きいカテゴリ11の算定方法の詳細化(電力の排出原単位の国別化など)</li> <li>● カテゴリ12(販売した製品の廃棄処理)で部材の種類と廃棄物種類の対応付け。</li> <li>● 企業全体の排出量の製品単位などへの配分方法。</li> <li>● 海外の排出原単位の整備。</li> <li>● 排出量の経時管理のために固定する排出係数の選定。</li> <li>● 算定結果の正確性のチェック方法の確立。</li> </ul>
<p>□ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世の中のスタンダードの動向を注視しておくこと。</li> <li>● 網羅性を確保した上で正確性の向上を図ること。</li> <li>● 既存データを最大限活用し全社的・長期的に一貫した算定方法にすること。</li> </ul>

## 3

## オムロン株式会社

以下のリストは、弊社でのScope3排出量の算定試行を実施した当時の情報です。

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 製品1台あたりの 部材の分類、使用量、仕入単価、製品生産量	● 3EIDベースの金額当たり原単位
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 3EIDベースの金額当たり原単位
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電力、燃料の使用量	● CFP-DBのエネルギー量当たり原単位
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 荷主分の輸送に係る手段、重量、距離	● CFP-DBの原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種別の排出量	● 環境省の廃棄物種類別の原単位
カテゴリ6「出張」	● 移動手段別の交通費	● 環境省の交通費支給額当たり原単位
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 移動手段別の交通費	● 環境省の交通費支給額当たり原単位
カテゴリ8「リース資産(上流)」	対象から除外	対象から除外
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 荷主外の輸送に係る手段、重量、距離	● CFP-DBの原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	対象から除外	対象から除外
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 年間消費電力、想定使用年数、販売量	● 系統電力はCFP-DB、電池は3EIDベースの金額当たり原単位
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品1台あたりの 部材の分類、使用量、廃棄物種別、製品販売量	● 環境省の廃棄物種別の原単位
カテゴリ13「リース資産(下流)」	対象から除外	対象から除外
カテゴリ14「フランチャイズ」	対象から除外	対象から除外
カテゴリ15「投資」	対象から除外	対象から除外
「その他」	対象から除外	対象から除外